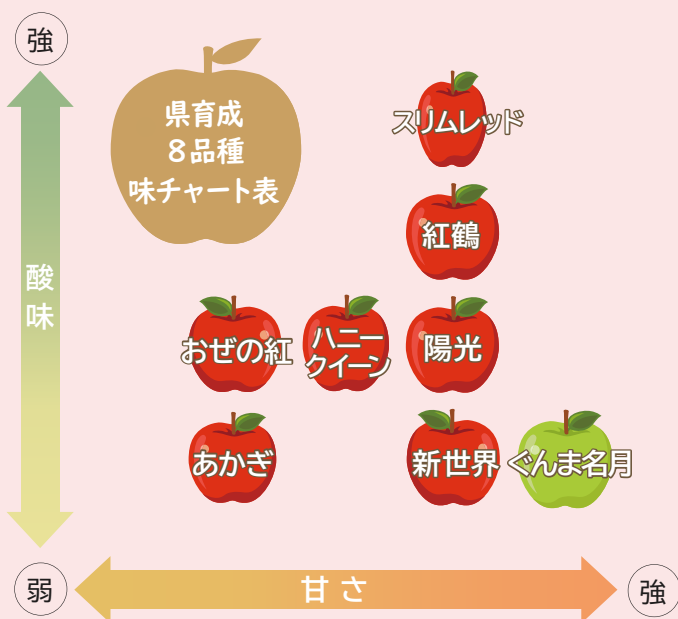


旬や個性を知って味わおう

あなたの好みはどれ リンゴ味くらべ

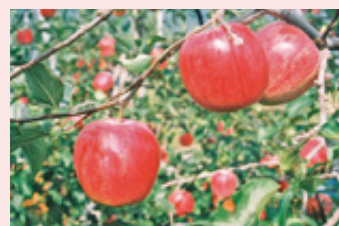


8月下旬～9月上旬

おぜの紅

甘酸のバランスよし

- ① 2009年
- ② 「盛岡47号」の自然交雑
- ③ 約350～400g、長円形
- ④ 13%、0.3%



9月下旬～10月上旬

あかぎ

果汁が多くさっぱり

- ① 育成完了1975年
- ② 「ゴールデンデリシャス」の自然交雑
- ③ 約280g、長円形
- ④ 13%、0.2%

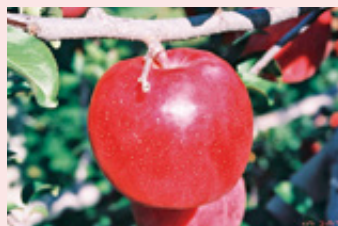


10月中旬～下旬

陽光

果汁多く甘酸バランスよし

- ① 1981年
- ② 「ゴールデンデリシャス」の自然交雑
- ③ 約350g、長円～円形
- ④ 14%、0.3%



10月下旬

新世界

蜜入りが良く果汁多い

- ① 1988年
- ② 「ふじ」×「あかぎ」
- ③ 約300g、扁円形
- ④ 14%、0.2%

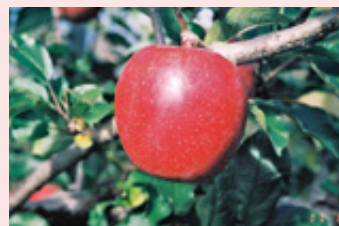


10月下旬～11月上旬

スリムレッド

手のひらサイズ 多汁甘酸多い

- ① 1995年
- ② 「ふじ」×「あかぎ」
- ③ 約180g、円筒形
- ④ 14%、0.4%



10月下旬～11月上旬

ハニークイーン

蜜入りが良く酸味多い

- ① 1995年
- ② 「憲」×「レロ11号」
- ③ 約350g、円錐形
- ④ 13～14%、0.3%

現在、9月のシルバーウィークに楽しめるように、早生と晩生の間にあたる中生の新品種の育成を目指しています。「沼田の秋の味覚と言えはりんご」と、誰もが親しめるように、力を入れていきます。

産地の気候風土に合った個性豊かなりんごを作り出すことを常に考え、新品種の育成を手掛けて30年近くになります。生産者に「作ってよかった」と喜んでもらえることが励みです。県内でのりんご栽培は主産地である東北地方と比較すると温暖なため、色が付きにくく果肉が柔らかくなりやすい課題があります。この地域に適した品種を作ろうと、1960年、同センターの前身である県農業試験場沼田果樹試験地が開設され、りんご新品種の育成が始まりました。当初から育種に取り組んだ研究員の中條忠久さん(故人)に教えを乞い、チャームポイントを持ったりんごを作ることがモットーに、生産者に寄り添いながら仕事を続けてきました。



県農業技術センター 中山間地園芸研究センター長 堀込充さん

りんごの個性引き出す 群馬に適したりんご育種